



# ワーグナーとヴェルディ、 革命の年と終の棲家

《オペラ劇場あらかわパイロイト》オペラ監督 田辺とおる

一六八五年バッハとヘンデル、一七九七年シューベルトとドニゼッティ、一八一〇年ショパンとシューマン。我らがワーグナーとヴェルディは一八一三年。

音楽の神様の粋な悪戯か、同い年の組み合わせは沢山ある。一八一九年オッフェンバックとスッペとシューマン夫人クララ、二四年スメタナとブルックナー、三三年ブラームスとボロディン、六六年サティとフゾーニ、七四年シェーンベルクとホルスト、七五年ラヴェルクとクライスラー、八二年ストラヴィンスキーとコダーイ・ラールン、記念演奏会にはインパクトが今一つ。一八六〇年のマラーとヴォルフならまだ縁があるだろうか。

それにしても十九世紀オペラを象徴する両雄、ワーグナーとヴェルディが同年生れとは凄い。歌手たるもの、今年これを祝わないでどうするといふ意気込みで、今回は生誕二百年記念ガラをお届けする。

この二人はかなり対照的だ。ヴェルディは貧乏宿の子に生まれ、金の苦勞の末に妻と子を亡くす悲劇にも見舞われる。その為か、自ら「使役船の時代」と回想するほどの自転車操業で劇場の注文に応え、十数作の初期作品と中・後期の名作をあわせて約三十曲のオペラを残した。ギャラ交渉も自分でやり、終生「暮らしの為に」作曲した。

ワーグナーも貧乏はしている。しかしこの人は生涯、他人の財布で暮した。借金踏み倒して夜逃げし、パリの屋根裏で写譜屋しながら糊口を凌いだ時代に「もう生活の為に音符を書かない」などと宣言してしまう。そしてそれを貫いた。無類の浪費家で恋愛も我儘だった。パトロンに居候しながら奥様とイイ中になっただけは一曲書く。新婚旅行で立ち寄った弟子の新妻（名ピアニストで作曲家リストの娘コージマ）を失敬、子もなして離婚させ自分と入籍して、また一曲。多くの庇護者を渡り歩いた末に、バイエルン国王という飛び切りのパトロンを得た。

一八四八年、二人は三十四歳。二月にパリで

勃発した民主化要求の市民蜂起、いわゆる二月革命は西欧全土に拡散するが、両者の反応が正反対で面白い。

ヴェルディはフリーの作曲家として各地の劇場の注文を受け、《海賊》までの十二作で名声を確立していた。パリで革命に遭遇した後、共和政が敷かれて平静を取り戻した大都會を満喫していたが、ミラノの市民蜂起の報に触れ、帰郷を決意。翌年には、教皇を駆逐して（五月で滅びる）共和国が誕生する前夜のローマで、戦意向上を意識したオペラ《レニャーノの戦い》を初演して大成功を収める。

しかし喧嘩も政治も嫌いな彼は生地の北イタリアに戻り、サンタ・アーガタ村の農園付き豪邸を買う。ヴィラ・ヴェルディである。以後、作風も変わって歴史や戦記物から心の機微、殊にコンプレックスを彫り込む事に熱中。《ルイザ・ミラー》に始まり《リゴレット》《椿姫》と続く中期の名作に結実する。そして終生ここを離れず、質素に暮らしながら、莫大な作曲料は専ら屋敷裏の農地の買い足しに投じられた。



パイロイトのヴァーンフリート館



サンタ・アーガタのヴィラ・ヴェルディ

一方、ワーグナーはこの時期、ドレスデンに在る。出世作《リエンツィ》の成功によりザクセン王国宮廷楽長に就任して五年。指揮者としてオペラや演奏会に忙しい。一五四八年創立というドイツ最古のオーケストラを彼は「奇跡のハーブ」と呼び、徹底的に訓練した（今日のシュターツカペレ・ドレスデン）。職業指揮者の嚆矢とされる由縁だ。作曲の方では《タンホイザー》に続き《ローエングリン》を脱稿。翌一八四九年五月、パリの革命がドレスデンに飛び火する。

ワーグナーは左翼の旗手として共和政を訴え、ロシアの無政府主義者バクーニンとも共闘した。パリケードのあちこちに出没してアジビラを配ったり、教会の塔に上って見張りをした。次第に衝突は過熱して宮廷歌劇場まで炎上するが、僅か五日で政府軍に鎮圧され、彼はワイマールの宮廷楽長リストの許に逃れる。後に舅となる、あのリストだ。反逆罪でドイツ全土に指名手配された彼に偽造パスポートを持たせてスイスへ逃がした。ここに十一年に及ぶ亡命生活が始まり、《トリスタン》《マイスタージンガー》《ニーベルングの指輪》と、質量ともにオペラ概念を根幹から覆した絢爛豪華な大作が産み出されていく。

追放が解除され王の庇護にも浴し、《指輪》全四夜が完成間近の一八七〇年、パイロイトを上演地に定めて専用の劇場建設に着手し、翌々年にスイスから移住。ようやく終の棲家、ヴァーンフリート館を作らせる。七四年竣工、六十一歳。「狂気が平和を見出す」と命名されたこの館は、晩年の主人を中心に一大音楽サロンとなった。

ヴェルディから七作、ワーグナーから四作の抜粋が精一杯だったが、かなり盛り沢山のプログラムができた。実はこの公演は瓢箪から駒で、「タンホイザー」舞台上演が来年に延期され急遽企画したもの。記念の年らしい会の実現に賛同して下さった、御出演の皆様から感謝申し上げます。